

## 平成30年度 食育作文コンテスト 入賞者 (案)

部門	入賞	題名	内容	氏名	学校名	学年	性別
小学校	最優秀賞	いのちをありがとう	夏休みに家族で川遊びに行き魚を釣った。お母さんが「ごめんね。ごめんね。」と言って料理しているのを見て「かわいそうだな」と思って見るのをやめた。テーブルに出てきた魚の天ぷらがいつもと違って感じた。お父さんが「お魚だけじゃなく、お米やお肉、野菜も生きてたんだよ。ありがとう。いただきます。」と言った。僕も大きな声で「いただきます」と言い骨まで全部食べた。「とてもおいしかった。お魚さん、命をありがとう」	おくなか 奥中 ゆうき 優貴	奈良市立伏見小学校	2	男
	優秀賞	わが家の食事ルール	わが家には絶対に守らなくてはいけない「食事ルール」がある。1つ目のルールは「いただきます」「ごちそうさま」を言い、ご飯を作ってくれる人に感謝の気持ちを伝える。2つ目のルールは家族との会話を大切にする。ご飯を笑いながら食べているので他の家よりおいしいはず。3つ目のルールは食べ方、座り方等を気をつける。きたない食べ方や変な座り方をしていると周りの人が不快になる。わが家の食事ルールを世界に広め、全ての人にご飯をおいしく味わってもらいたい。	いのうえ 井上 メイ	奈良市立伏見小学校	6	女
	優秀賞	好ききらいをなくそう	私は魚が生臭い味もおいしくないのが嫌いである。今回食育の事を調べて少しずつ魚を食べていこうと思う。理由の1つ目は捨てられている食品約1700万トンの内、約632万トンは食べられるのに捨てられたり、好き嫌いで残されたもの。2つ目の理由は世界の8億40万人がご飯を満足に食べられず、栄養が足りず病気になっている人もいっぱいいる。嫌いだから食べ物を残すのはやめよう、少しずつ克服しようと思った。この事をみんなにももっと知ってもらいたい。	おさき 尾崎 さほ 咲穂	香芝市立旭ヶ丘小学校	6	女

部門	入賞	題名	内容	氏名	学校名	学年	性別
中学校	最優秀賞	食べること・・・それは生きること	母は毎朝「朝何食べる？」と聞き、その人に合わせて作ってくれるので一年中大忙し。理由を聞くと「食べることは生きること。正しい食生活をしていれば予防できる病気がある。愛情があるからどんなに忙しくても食べることは決して手を抜かない。」と言った。昨年塾で冷凍食品を食べたことのない人と言われて手を挙げ恥ずかしく思った自分が恥ずかしい。母の食に対する心配りを知った今は、私が言う「いただきます」はただの挨拶でなくなった。	いけぞえ 池添 ゆめ 希	広陵町立真美ヶ丘中学校	2	女
	優秀賞	食事をするとは	私は家族と一緒に食事をするのが好き。平日は家族4人そろって食事をするのはほとんどない。外食をすることが少なく、母は家族の体調を考えて作ってくれてとても美味しい。「家でご飯を食べるのが一番リラックスするし食べやすい。」と父も私も思う。「子ども食堂」の話聞き、誰かと一緒に食べる仕事が生きていく活力に繋がっていると思う。一緒に食事をする人がいて、会話があって、周りの雰囲気が安心できる環境であることがとても大切。家族と一緒に食事することは幸せなこと。	いで 井手 あやね 文音	生駒市立生駒中学校	2	女
	優秀賞	僕もいつかは	僕の山添村の祖父は米と野菜作りの名人。今年の夏休みも祖父の家で、毎年恒例のバーベキューで野菜や米をいっぱい食べた。満願寺唐辛子は辛いのが混じってロシアブルーミたいでおもしろい。兄が見つけた「おしりみたいなトマト」や野菜はみんなを笑顔にしてくれる。田んぼがイノシシに荒らされ苦労して機械で土をならし、無事に稲が実り輝いている。僕もいつかは祖父の田畑をついで、みんなを元気にする米や野菜を作りたい。	いまもと 今本 そうま 爽馬	生駒市立生駒中学校	1	男

部門	入賞	題名	内容	氏名	学校名	学年	性別
高等学校	最優秀賞	食の力	私は小学生の頃にお母さんを亡くした。食べ物のがのどを通らない位のつらい出来事。おばあちゃんが「ひと口食べてごらん」と言って作ってくれたカレーで元気が出た。「生きることは食べること。つらい時こそご飯をもりもり食べなさい」と言うおばあちゃんの言葉にご飯で人を元気にできることを学んだ。それから毎日兄と自分の弁当を作っている。辛いことがあってもご飯をしっかりと食べて前に進もうと思う。将来食で人を幸せにできるようになりたい。	かわむら 河村 なお 菜央	奈良県立法隆寺国際高等学校	1	女
	優秀賞	私が一番好きな味	私はお母さんの作るご飯が一番好き。世界で一番と本気で思う。お店で食べるご飯もおいしいが、お母さんが作るご飯は特別感があり私の好みの味にドストライクに当てはまる味。食べるとお母さんの優しさや愛情がひしひしと伝わりとても胸がほっこりするし笑顔になれる。頑張る源になる。ご飯を家族で食べる時間が言葉にできない程幸せ。料理を今から頑張って練習しよう。いつか自分の子に「ママの作るご飯は世界で一番だね!」と言ってもらえるように。	えばた 江端 のぞみ 希	奈良県立法隆寺国際高等学校	1	女
	優秀賞	食への感謝	私の父は料理屋を経営。父の店に手伝いに入った時に目にしたのは、最後の1つを残す人が多い。お皿を下げる時にとっても悲しくなった。その捨てられる食を遡ると、農家の方が一生懸命作っているその気持ちをありがたく頂き、おいしく食べることが農家の方の幸せに繋がる。自然災害により多く食べること、作ることもできない人が増えてきている。食べ物があふれ、作って下さる方がいて温かい物が食べられるということに、日々感謝する私と同じ思いの人が一人でも増えてほしい。	はまの 浜野 にちか 二千花	天理高等学校第二部	2	女